



抑制力ポチャ栽培



野菜
小林 優介
下島宮農指導センター
080-1729-1635

作型	8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	○←→○	○←→○	○←→○	→			→			→		
	播種	定植		誘引・交配・葉散						収穫		

1、品種 くりゆたか

2、圃場準備

排水対策を徹底し、畦幅は3～4mの高畦ベットを作る。
施肥量 (kg)

10a当たり	N	P	K
基肥	12～15	20～25	12～15
追肥	3	3	3
合計	15～18	23～28	15～18

3、播種

8月上旬～中旬に直播又は、セルトレー・ポットに播種する。
播種量は10a当り1本仕立て1000粒、2本仕立て500粒必要。

4、定植

1本仕立ては株間30cm、2本仕立ては株間70cmで、植穴処理を行い定植。活着するまでは灌水する。

5、整枝

一本仕立て…主枝が60cm位伸びた頃わき芽を除き、風等で動かないように主枝を等間隔に杭や棒等で真直ぐ固定する。着果位置は、9～12節程度で、株元から70～100cmの長さに着果させる。

二本仕立て…本葉が4～6枚残り摘芯する。子づるが15～20cmほど伸長したら、良好なつるを2本残り他はかぎとる。後の管理は1本仕立てに準ずる。

6、交配

9月上旬～下旬にミツバチ等や雄花を利用した人工交配により必ず着果させる。

7、追肥

着果確認後にソフトボール大の大きさになった頃、速効性肥料を施用する。中耕と除草を兼ねて蔓が1mほど伸びた時に待ち肥を行う。

8、収穫

着果後45～50日前後で収穫。

9、病害虫

アブラムシ、オンシツコナジラミ、ハモグリバエ、うどんこ病等が発生する為早めの防除を行う。



7月の柑橘園管理



果樹
鶴浜 研二
上島宮農指導センター
080-1771-4257

梅雨明け後は、肥大や減酸促進・樹勢維持のため、適期灌水を行いましょ。また、今月は摘果の重要な時期となります。暑い中の作業となりますが、肥大を良くするためにも早期に粗摘果作業に取り掛かりましょ。

1. 病害虫防除

対象品種	防除時期	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	備考
温州中晩柑	上旬～下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
中晩柑	中旬	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	混用散布
		アザミウマ類 ゴマダラカミキリ	※モスピランSL液剤	4,000倍	
温州中晩柑	発生時	ミカンハダニ	パロックフロアブル	2,000倍	幼虫・卵対象
		ハマキムシ	エクシレルSE	5,000倍	
		カメムシ	スタークル顆粒水溶剤 MR.ジョーカー水和剤	2,000倍 2,000倍	

※1. アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル 4,000倍も使用可能です。

2. 施肥・葉面散布

栽培タイプ	肥料名	品種名	施用時期	10a当たり袋数
省力化タイプ	アグリロンG28号	清見・河内晩柑・甘夏 パール柑・デコボン	7月上旬	5袋

○デコボンの果皮強化対策としてカルシウム剤を7月～9月に散布を行いましょ。

3. 摘果の実施

○温州みかん…小玉果や病害虫果を中心に摘果を行って下さい。また、日焼けしやすい上向き果も摘果を行いましょ。

○中晩柑…今月の中旬までに粗摘果を終わるよう作業を進め、目標着果数の7～8割程度まで落とします。品質の悪い裾成り・内成りから行き、その後赤道部と樹上部の小玉果や傷果を中心に落としましょ。

品種名	階級目安	7月1日	7月10日	7月20日	8月1日
デコボン	2L	31ミリ	37ミリ	43ミリ	47ミリ
清見	2L	31ミリ	37ミリ	44ミリ	49ミリ
甘夏	2L	33ミリ	38ミリ	47ミリ	57ミリ
河内晩柑	L	40ミリ	45ミリ	55ミリ	59ミリ
パール柑	2L	50ミリ	57ミリ	67ミリ	75ミリ

4. 温州みかん品質向上対策

○タイベック被覆の実施

品質向上の為に、タイベック被覆を行いましょ。また、被覆後は定期的に果実分析を行い、品質に応じた水分管理を行いましょ。

品種名	被覆時期	品種名	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬	南柑	7月中旬
肥のあけほの・早生	7月中旬	青島・金峰	8月上旬

○フィガロン散布の実施

マルチ被覆と併せ、フィガロンを散布する事により品質の向上を図ります。下の表を参考に実施しましょ。

1回目の散布時期は満開日より60日後、2回目は満開日より80日後となります。但し、収穫前日数は21日です。使用の際はご注意をお願いしましょ。

品 種	1回目		2回目	
	散布時期	希釈倍数	散布時期	希釈倍数
極早生	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000～3,000倍
肥のあけほの	7月上旬	2,000倍	7月下旬	2,000～3,000倍
早生	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍
普通	7月中旬	2,000倍	8月上旬	2,000～3,000倍

花卉



土壌還元消毒について



花卉

竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

あまくさ管内では、7月に入り主要品目であるカスミソウ、トルコギキョウ等の出荷が終盤を迎え、片付けの後次年産の準備が行われます。そこで今回はJAあまくさ管内でも取り入れている土壌還元消毒について紹介します。

1・効果と方法

還元消毒法は平成11年に道南農業試験場で開発された土壌消毒法です。この消毒は、ハウス土壌に米ぬか(又はふすま)を混和しかん水することで土壌を還元化して土壌病害菌やセンチュウを死滅させる方法です。

特徴は、有毒ガスが発生しないこと、米ぬかを利用するため材料費が安い等です。

・還元消毒法の対象病害

病害菌名および病名	害虫名
フザリウム菌(萎凋病、イチゴ萎黄病、メロンつる割病など)	センチュウ類 (ネコブセンチュウ)
パーティシリウム菌(半身萎凋病)	
ラルストニア菌(青枯れ病)	

2・還元殺菌法の手順

(1) 材料

- ・米ぬか 300kg / 10a ソイルクリーン(発酵菌) 3袋 / 10a
- ・被覆用透明マルチ(古ビニールでも可)
- ・かん水チューブ(散水チューブでも可)
- ・水 30t以上 / 100坪
- ・かん水用ポンプ及びその他

(2) 作物残さの整理

ハウス内の作物残さを搬出し、マルチ、かん水チューブ等を撤去します。ハウスの被覆を張ったままにしておきます。

(3) 地面の整地

耕起を行い畦を崩して地面を均平にします。

(4) 米ぬか・ソイルクリーンの散布

米ぬか・ソイルクリーンを10a当りの必要量をムラのないよう施用します。

(5) 耕起

米ぬか・ソイルクリーンを散布後、直ちに耕起します。その際、かん水ムラができないよう地面を均平に仕上げます。

(6) チューブの設置

ハウス全面にかん水が行き渡るようチューブを設置します。かん水チューブは60cm間隔に設置し散水チューブは能力に応じてハウスに1~4本を設置します。

(7) かん水の実施

100~500mmにかん水を行います(100坪ハウスの場合30~45t)。

(8) 被覆

かん水終了後、透明マルチで地面を覆います。

(9) ハウスの密閉

ハウスを密閉し約20日間ほど放置します。この間にドブのような臭いがすれば消毒は成功です。

(10) 消毒後処理

放置後、被覆用透明マルチ、チューブなどを撤去し数日間解放して終了です。



米ぬかの散布



被覆後の様子



終了時の様子

ただし、炭水化物と一言でいっても組成は異なります。例えば、同じ炭水化物だからといって、砂糖と小麦粉がたっぷり使われたスイーツを食べると体はほかほかと温まりません。

炭水化物は1個の糖から成る「単糖類」と、ブドウ糖と果糖が結合した「二糖類」、単糖が3~9個結合した「少糖類」、そして単糖が多数結合した「多糖類」に分類されます。「単糖類」や「二糖類」は砂糖や果物に含まれ、「少糖類」はオリゴ糖などに含まれます。穀類や芋類に多く含まれるのが「多糖類」で、単糖が多数結合しているため消化

夏になると食べる機会が多くなる麺類。冷たいそうめんやそば、うどんなどの冷やし麺やピリ辛の麺類など、食欲が減退しても食べやすいのでついつい選んでしまう人も多いのではないのでしょうか。

さて、麺類をはじめとする「主食」は炭水化物という栄養素の主な供給源です。炭水化物は、穀類(米、パン、麺類)や芋類、砂糖などに多く含まれます。エネルギー源となり体を温めたり、体組織の構成成分となるなど重要な栄養素の一つです。

炭水化物の中でも質の良いご飯

のスピードも緩やかになります。

同じ「多糖類」でも加工の度合いによって消化のスピードは異なります。小麦(粒)を粉状にした小麦粉を加工すると麺類やパンになります。ご飯に比べるとかむ回数が少なくても食べられるので時間がないときには良いかもしれませんが、ご飯の方が満腹感が得られやすく、消化のスピードもゆっくりなので、腹持ちが良いという特徴もあります。

食欲のないときは、さっぱりとした梅干しと一緒に食べたり、カレーなどスパイスを効かせたりすると食欲が湧いてきます。夏こそスタミナをつけるためにご飯をしっかり食べていきたいですね。



お米で健康

管理栄養士・雑穀料理家●柴田真希